



アピール文 厚生労働省へ

●希少がんについて以下要望いたします。

1. 治療法が確立されていない希少がんの患者にとって、ゲノム医療や免疫療法等の先進医療は希望となっています。加速度的な研究開発をお願いします。
2. 治療法の早期確立のため、各種希少がんの専門医療機関を集約化し治験の促進をお願いします。
3. 各種希少がんにおいて、患者が最速最短で最良の治療が受けられるよう医療機関への紹介システムの確立をお願いします。
4. 各種希少がんに関するこれまでの研究データ、診療データ、患者会が保有する症例データ等を集約し、データベース化し、希少がんの系統だった取り組みをお願いします。
・医療者の研修の機会を増やし、希少がんの状況を理解し、希少がんに関心に取り組む医療者の養成をお願いします。



アピール文 厚生労働省へ

●ピアサポート活動について以下要望いたします。

1. がん患者やその家族の悩みや不安を軽減するためのがん体験者による相談支援(ピアサポート)が重要と考えられます。ピアサポートの重要性を広く一般市民へ周知できるように対応を要望します。

同時にピアサポート活動への支援をお願いします。

2. 地域格差を解消するために、全国の都道府県単位でピアサポーター養成事業にとり組むことを要望します。
3. がん拠点病院に設置されている「相談支援センター」と「がん患者サロン」においてピアサポーターの活用を希望します。
4. 地域医療・拠点病院等のチーム医療の中にピアサポーターも加わり、がん患者支援の連携の輪の一端を担うことができるシステムづくりを希望します。



アピール文 日本医師会へ

●希少がんについて以下要望いたします。

1. 医師の各種希少がんに対する意識を高め、専門病院への紹介を迅速に行えるよう、更なる取り組みをお願いします。
2. 希少がんに関する研修・啓蒙の機会を増やし、希少がんの状況を理解し、熱心に取り組む医師が増えることを期待いたします。

●ピアサポート活動について以下要望いたします。

1. がん患者やその家族の悩みや不安を軽減するためのがん体験者による相談支援(ピアサポート)が重要と考えられます。ピアサポートの重要性を医療者へ周知できるように対応を要望します。
2. がん拠点病院に設置されている「相談支援センター」と「がん患者サロン」においてピアサポーターの活用を希望します。
3. 地域医療・拠点病院等のチーム医療の中にピアサポーターも加わり、がん患者支援の連携の輪の一端を担うことができるシステムづくりを希望します。



アピール文 がん患者・家族の皆さんへ

日本では年間約100万人の新がん患者が発生しています。がん患者と家族のみなさん、辛いのはあなただけではありません。近くのがんサロンやがん患者会にぜひ参加してみてください。そこには仲間がいます。きっと新しい希望が見つけれられると思います。そしていつかあなたもピアサポート活動に参加してみませんか。